



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

拝啓 当神社の御神域も深い緑に包まれて新しい息吹が感じられるようになりましたが、皆様方に於かれましては愈々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

天皇皇后両陛下に於かせられましたは、今年三月十一日国立劇場で東日本大震災五周年追悼式にご臨席遊ばされました。また同月の十六日から十八日にかけて福島・宮城の両県に行幸啓遊ばされ、現地の復興状況をご視察になられました。

そんな復興の渦中にある四月十四日午後九時半、熊本県熊本地方を中心としたマグニチュード六・五の前震が発生し、翌々日には、それを上回る本震が起こり多大な被害を生みました。その後も相継ぐ余震が熊本・大分地方で群発し、被災地域における避難所生活の長期化が懸念されておりました。

この危険な状況下、天皇皇后両陛下は強いご意志を示され五月十九日に現地入りされ、避難所の被災者一人一人に膝をついて暖かい励ましのお言葉をかけになり、一日も早い平穏な日日の訪れを願われました。私共はこの大御心に少しでも報い奉ることを念頭に置かねばなりません。

一方報道では、阿蘇神社（熊本県）の被害状況が大きく取り上げられておりましたが、被災地域に鎮まる数多くの神社も同様であり、当界では復興に向けた支援活動が行われ、当社におきましては、地震発生後の比較的早い時期に「被災神社復興義捐金」の募集を始めましたところ、多くの暖かいお気持ちも頂戴いたし、六月半ばに神社包括団体を通じ納めさせて頂きました。茲に厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、熊本地震により大切なご家族を失われましたご遺族の心が、一日も早く癒えますことをお祈り申し上げますと共に、負傷された人々の早期回復と市街の復興を祈念いたし、御挨拶とさせて頂きます。

祭事報告(十二月、六月)

年越大祓

十二月三十日齋行

殿内におきまして宮司以下祭員三名にて大祓詞を奏上し、その後拝殿前に移動し、事前に皆様からお預かりしました人形を忌み火に投じ、年末までの半年間の罪と汚れをお焚き上げいたしました。



忌み火にてお焚き上げ

元旦祭

一月一日齋行

世界の恒久平和と国の隆昌又、氏子崇敬者の繁栄と御多幸を願い神社総代役員参列のもと恙なく齋行されました。

祭典開始時刻には、多くの参拝者が拝殿前に列をなし、我先にと鈴を鳴らし、静かに手を合わせてお参りされておりました。



宮司玉串奉奠

左義長

一月十五日齋行

左義長は、昨年一年間に亘りご守護頂きましたご神符や御守を初め、注連縄(しめなわ)や正月飾りの類に至るまで、感謝の祈りと共にお焚き上げする神事です。

当日は多くの参拝者が見守る中で神事が行われ、境内に作られた火炉にてお焚き上げ致しました。焚き上げの終了する正午頃まで正月飾りをお持ちになる参拝者で賑わっております。

浄火祭

二月三日齋行

ご祈禱の際にご神前に奉られました金幣串や、自宅の神棚等で祀られました紅白串、祈願奉納され

ました絵馬・帽子のお焚き上げをいたしました。

焚き上げの最中は、神職らによる大祓詞が奏上され、火炉の周りでは、氏子区域から選出された厄男が、「氏名 心願成就」と連呼し、祈願絵馬と金幣串を次々と火炉にくべました。

当日、左義長(どんと焼)と同様に、注連縄・しめ飾りをお持ちになる参拝者がおみえでしたので、左義長とは異なる神事の為、それらのお焚き上げが出来ない旨をご案内しましたところ、快く解して戴くことができ安堵いたしました。

参道脇では、敬神婦人会のご助成にて毎年恒例の甘酒が振る舞われ、ご参拝の皆様は生姜のきいた甘酒で体を暖めておみえでした。



炊き上げ最中

また、ご家庭で不要になりました帽子の焚き上げに多くの方がご参拝になりました。
祈年祭



宮司祝詞奏上

二月十一日齋行
「としごひのまつり」とも呼ばれ、三大祭の内の一つで、大切なお祭りであります。今年一年の五穀(米・麦・粟・豆・黍)の豊穰を祈願する祭典で、氏子総代が参列のもと厳肅に齋行いたしました。

鎌山神社(境内社) 例祭

三月十七日齋行

伊勢神宮の外宮(豊受大神)をお祀りし、社殿は本殿北東にご鎮座されます。

例祭は、宮司以下祭員にて肅々と齋行されました。

例大祭

四月二日齋行

本年は、満開の桜風情、澄み渡る青い空に恵まれ、多くの参拝者が見守る中、左の通り盛大に且つ厳肅に例大祭が斎行された。

【当日の流れ】

- ・七時 社殿装飾
- ・八時 朝拝

日供祭
 発輿祭（出発）



神輿巡幸

- ・十二時 神輿還幸（帰着）
- ・十三時 演芸奉納



特設舞台前

・十四時半

打ち囃子奉納



打ち囃子の様子

・十五時

例大祭



修祓



祝詞奏上



舞楽奉納

・十九時

本楽祭



拝殿前

南宮神社（相殿社）例祭

五月四日齋行

本殿の相殿社（東）に鎮まり座す、南宮神社（御祭神は南宮大社より御分霊を戴いた金山彦大神）の例祭が恙無く斎行されました。
 お田植祭

六月八日齋行

境内に作られた神饌田前にて齋行。神事後、宮司の手により早苗が神饌田に次々と植え付けられました。

農休祭

六月十二日齋行

当社をはじめ氏子地域のお田植えが無事に終了した事に感謝を申し上げ、風雨の災いや害虫被害などに遭うことなく、無事に秋の収穫を迎えられるように願われた。

月次祭

毎月、一日と二十日に齋行致しました。（一月は二十日のみ）

社会見学

大垣市立静里小学校の三年生の皆さんが、「総合学習」の一環として地域の文化に触れるため、五月十二日に神社に集い開催されました。



境内にて

この行事は八年程前から始まり、当社の歴史や由来・役割等について説明をしまして、続いて生徒さんからの質問にお答えする勉強会です。
 毎年、ビックリするような質問があったりと楽しみにしております。生徒さん達が目を輝かせて熱心にメモをとる姿はとても素晴らしいです。
 神職もそれに応えるように丁寧にお話しています。

神社について

『狛犬』

神社の境内には狛犬があり、殆どが左右一対で向き合う形、または社殿に対して背を向け、参拝者と向き合うように置かれていることが多いかと思えます。

そもそも狛犬が神社に置かれるようになったのは平安時代の終わり頃とされ、私たちが目にする狛犬とは獅子（ライオン）に似た特徴を持つ想像上の霊獣（狛犬）です。また、初期の頃の狛犬は建物内に安置されていたため、神仏像と同じく木製であったようですが、中には陶製の物や金属製の狛犬も製作されたようです。



西側

現し、その力で邪気を祓うとされ、ご神前の守護を担っていると言われます。また、一方が口を開け、もう一方が閉じている造りは、それぞれ阿（阿形【あぎょう】）・吽（吽形【うんぎょう】）を現すと一説に考えられております。

さて、その起源はエジプトやインドにあると説かれ、神域や仏を守る多様な偶像がシルクロードを通り、中国（唐代）朝鮮半島を経由して当国に伝来したのではないかと言われております。

伝来当初狛犬は、宮中殿内で神殿を守護する獣像（神殿狛犬）として配置されその後、宮中と関わり深い神社に伝わり更に時を経て一般の神社に置かれるようになったとされます。因みに日本最古の国産狛犬（石製）は、籠神社の狛犬【重要文化財】で鎌倉時代とも安土桃山時代作とも伝わります。狛犬の普及に伴い、多くの匠たちが狛犬の製作にあたったのですが、実像を観ることもなく造る事も多かつたようです。

現代では、獅子の像一対で狛犬



東側

と称しておりますが、両方とも獅子像であったり、片方はライオンを模した獅子像、もう一方は想像から造られた角のある像を配置していたり、「コマイヌ」の名の通り、犬そっくりの姿をした狛犬も存在しております。

また神社によつては、その御祭神にとても縁のある動物像（牛「天満宮」・狐「稻荷神社」鹿「春日大社」など）が配置されている場合も多数ございます。

狛犬の形状と表情は神社或いは地域によつて実に様々です。各地の神社を訪れた際には、是非その神社の狛犬をじっくりご覧になられてはいかがでしょう。新しい発見に出会うのも神社巡りの醍醐味の一つと言えますよ。

神職への質問Q&A

問 一冊の御朱印帳の中に、お寺と神社を一緒に載せても良いのでしょうか？また、お参りは御朱印を戴く前に済ませておくべきでしょうか？

答 当社でも寺院・神社と一冊の御朱印帳で参拝される方を多く見受けられます。そのような御朱印帳を拝見して、お断りする事はございませんが、可能であれば寺院用・神社用とお分けになられた方が丁寧で失礼の無い御朱印集めに通じるのではないのでしょうか。

参拝に関しては、先にお参りをしてからという流れが定着しつつあるように思いますが、先に御朱印帳をお願いして、参拝の後に受け取る形でも問題ございません。後者の方がスムーズな場合も有るかと思えます。

まとめ 御朱印集めを嗜まれる方が増えてきている昨今、御朱印を受ける行いと、参拝する機会に恵まれた事に感謝の念を抱かれ、参詣の印（しるし）を大切にして頂きたいものです。

祭事案内(七月〜十月)

西宮神社(相殿社) 例祭

七月十七日

兵庫県の西宮神社より御分霊を戴き、本殿の相殿(西)に鎮まり坐す蛭子命の例祭になります。

末廣稻荷神社例祭

八月七日



末廣稻荷神社参道

境内の北東にご鎮座の末廣稻荷神社の例祭です。この神社は戦後まもない昭和二十六年に京都の伏見稻荷神社からの御分霊をお祀り申し上げております。

毎年例祭に合わせて氏子地域の子ども達が、行灯に貼る絵を心を込め描き奉納されました行灯は、末廣稻荷神社参道に掲げられ、例祭を華やかに彩ります。

夏越大祓

八月七日

古来より「水無月の夏越の祓えする人は千歳の命延と言ふなり」と詠われております夏越大祓は、半年間の内に知らず知らずに受け犯してしまっている罪と穢(けがれ)れを紙で出来た人形(ひとがた)に託して、忌み火にてお焚き上げし、年末までを無事健康に暮らせますようにと、半年に一度執り行う神事です。

神事では、神職により大祓詞が奏上され、被えつ物を八つに切り裂いて、人形のお焚き上げを行つた後に「茅の輪くぐり神事」が行われます。季節柄暑い時期ではございますが、多くの皆様のご参列をお待ちしております。



茅の輪くぐり神事



左：申込封筒・右：人形

人形(ひとがた)と申込封筒は社頭にご用意いたしておりますので、必要事項をご記入の上、身体を撫で息を吹きかけ、申込封筒にお志しと共に納め、社務所にお申し込み下さい。(右写真)ご不明の点は社務所にてお尋ね下さい。

長寿祈願祭

九月十五日

当社の鎮座します宇留生地区のご長寿の皆様(宇留生長寿会の皆様)をお招きし、健康であることへの感謝は元より、今後の更なるご健康とご長寿を祈願いたします。神明神社(境内社) 例祭

十月十七日

天照大御神をお祀りする神社の例祭です。お社は本殿の北西に鎮座しております。

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈験あらたか」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させて戴きます。

会員の特典 (抜粋)

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施
- ・及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・昇殿参拝

会員の種類と年会費

| | |
|----|-----|
| 個人 | 三千元 |
| 家族 | 五千元 |
| 特別 | 一万円 |
| 法人 | 二万円 |
| 名誉 | 三万円 |

お問い合わせ先
神社社務所まで
〇五八四 九一 三七〇〇

祭事案内(十一月)

七五三祈禱

十一月中

七五三のお祝いは、平安時代の頃より公家の間で、三歳から七歳位にかけて男女の祝いの儀式が行われて来た事が始まりと言われています。現在では三歳・五歳・七歳と言う成長の節目に神社へ参拝し、これまでの無事成長を感謝し、これから先の健やかな成長を願う儀式として行われております。一般的に七五三のお参りと申しますと、十一月十五日に行われます。その期日の起源につきましては諸説ございますが、江戸時代に五代將軍徳川綱吉が長男の徳松の成長を願って氏神様へお参りしたのが、十一月十五日であったとされ、その後広く庶民に広がったと伝われます。



平成28年 七五三

| | 数え歳 | 満年齢 |
|----|-----|-----|
| 7歳 | 平成 | 平成 |
| | 22年 | 21年 |
| | 生まれ | 生まれ |
| 5歳 | 平成 | 平成 |
| | 24年 | 23年 |
| | 生まれ | 生まれ |
| 3歳 | 平成 | 平成 |
| | 26年 | 25年 |
| | 生まれ | 生まれ |

年齢については、三歳まで男女共に髪を剃る習慣があり、三歳になると髪を伸ばし始めるので、三歳の七五三を「髪置きの儀」と称しました。

また、男児が五歳になると袴を履き始めるとし、五歳の七五三を「袴着の儀」と呼びました。そして、女兒が七歳になると、子供用の帯から大人用の帯を着用するとし、七歳の七五三を「帯解きの儀」と呼ぶようになったのです。

近年では数え歳・満年齢関係無く、男女共に三歳・五歳・七歳の各歳にご参拝になり、ご祈禱を受けられる方が大変多くなりました。当社では、七五三のご祈禱を十月から年末にかけて随時お仕えいたしております。

崇敬会大祭

十一月三日

一年に一度、崇敬会会員の為の大祭です。皆様の無病息災や家内安全、子孫繁栄を祈願いたします。当日は県内外から会員の方が多数お見えになり、ご参列の会員のお名前がご神前にて報告されます。新嘗祭

十一月二十三日

秋の稔りに感謝申し上げ、当社の神饌田で収穫されるお初穂がご神前にお供えされます。初物を神様に食して頂き、皇室の御安泰国家の安寧を祈願いたします。尚、この初穂はご祈禱のお下がりとして授与しております。

末廣稻荷神社 参道幟 募集中

末廣稻荷神社参道の朱色の幟旗は、毎年末廣稻荷神社例祭(八月)とお正月に新調します。ご奉納頂きました幟は、約半年間に亘り参道に掲揚されます。

お稻荷さんと聞きますと、「商売繁盛」を連想されますが、穀物

(食物)の神様であり、命を育む上で最も大切でありまして、家内安全・商売繁盛・健康・子孫繁栄に繋がっていきます。幟を奉納される方の中には、「家族が食に困らずに元気で暮らせませう」とおっしゃる方や、また誕生記念などの慶事の節目節目に奉納になる方も多くお見えです。



八月取替予定の幟の申込にはまだ余裕がございます(記事作成時)、奉納ご希望の方は社務所までお申込下さい。先着順にて受付させて頂きます。

編集後記

「神社について」と題しまして特集しておりますが、特筆希望などございましたら、お気軽にお寄せ下さい。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一

Eメール syamsyo@mikubi.or.jp

TEL(〇五八四)九一三三〇〇